

下町明老会の復活

Rebirth of Shimomachi Elderly Club

しもまちめいろうかい 下町明老会とは

成東の下町区 1～5 丁目の 60 歳以上の区民で構成される会です。平成 29 年度に解散しましたが、一年後に復活を果たしました。活動再開後、新会員は 20 名を超えています。

今回は下町明老会の活動再開を取り上げ、今日課題となっている老人会や敬老会がどのようにしたら存続・復活できるのか探っていきます。



楽しく賑やかに活動しています

魅力ある活動を行うために

- ・気軽に入会できるように、地区の集まりの際に未加入者への呼びかけをしています。また途中入会は随時募集、ひとりで参加することが不安な人には、同伴者参加 OK にしています。
- ・活動の報告も兼ねて「会だより」を発行することにより、**どのような活動を行っているかについて透明化**を図り、次回の参加への意欲を高めています。
- ・食事会を通して様々な会話をすることで、会員同士の交流を大切にしています。
- ・各イベント終了後には参加者の希望や意見を聞き、次回の活動に生かしています。
- ・活動のマンネリ化を防ぐため、様々な内容を提供するとともに、曜日が偏らないよう配慮しています。
- ・各丁目に連絡員を配置し、「会だより」の配布や、次回の参加呼びかけ、慶弔・安否情報など、会員とのパイプ役をしています。

解散から 1 年・・・ どのようにして下町明老会は復活したのか

復活までの流れ

- ① 高齢化が進む下町区でも互いの安否や声かけ、交流の機会となる居場所づくりが必要と感じ、活動を再開したいとの声があがりました。
- ② 準備委員会(区長 OB 会)を立ち上げ、新旧会員の募集を呼びかけました。
- ③ 区長会、区総会で下町明老会の必要性をアピールし、活動再開に至りました。

POINT1 準備委員会は有志が主体的に立ち上げた

通常は役員を決める際、「〇丁目からひとり、△丁目からひとり」というように、各丁目の代表として役員を選出してもらうことが多いですが、活動再開のようなケースは多大な労力と時間が必要なため、丁目にこだわらず、会のあり方や活動の内容・やり方を見直そうとする人たちが立ち上げました。

POINT2 役員は会長を支え、基本的なことを行う

活動再開する上で大変だったことは、会長をしてくださる人を見つけることだったそうです。会長はやることが多く、大変という認識が強かったためか、なかなか見つかりませんでした。そのため会長には、あくまで代表を務める立場を取っていただき、基本的なことはすべて役員で行うことにしたそうです。イベントの開催や会計、その他手続きなどはすべて役員で行うことで、会長の負担を減らしました。その結果、会長を快諾していただくことができました。

会員の声

- ・声をかけられたり、誘われたりしたため、都合をつけて参加しようと思いました。
- ・明老会の再開後の様子を見聞きし、いざという時に日頃から気軽に声をかけられる身近な環境づくりが大事だと思い、加入しました。
- ・定年延長や年金受給が遅くなったため、60 歳を超えても社会で活躍する人が多くなり、「仕事を休んでまでの加入はまだ考えられない」、「老人会に入るほどの歳ではない」などと思っていましたが、参加者から良さそう、楽しそう話を聞き、加入しました。

顔をあわせ声をかわす下町明老会の気軽な活動

健康体操(タオルやラップの芯を使った気軽にできる体操)、輪投げやペタンク、年 2, 3 回の日帰り旅行、外部講師を招いての講座開催、防災グッズの作成、サロン音楽会、太極拳、血圧測定、古切手集め、歌を歌うなど楽しんでいます。



日帰り旅行で佐原香取方面に行きました(令和元年 6 月 17 日)

こんな世界も
あったのか



観光ボランティアの方に佐原の町なみを案内していただきました

サロンだより編集部から一言

高齢者のなかには、1 カ月間家の外にあまり出ないという方もいるかと思います。このような会に所属すると、外に出る機会が得られるだけでなく、近所の人との交流も生まれるため、生活に張りをもたせてくれます。

これから、老人会を立ち上げよう、もしくは活動休止したけれど再開したいと考えている方は参考にしてみてください。